

# \* 研究授業からの学び

R7.3.4  
No.2

令和7年 1月22日(水)  
第5学年 算数科 岩村 悠雅 教諭  
単元名 「比べ方を考えよう(2)」  
小単元3 「割引きの値段を求める場面で、割合に着目して解決の仕方を考え、説明する。」(4時間)

## <単元でつきたい力>

- ・二つの数量の関係の比べ方や表し方などを、図や式などを用いて考えた過程や結果を振り返り、多面的にとらえ検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学の良さに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしたりする態度。 【学びに向かう力・人間性】
- ・ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係を比べる場合に割合を用いる場合があることを理解する。
- ・百分率を用いた表し方を理解し、割合などを求めること。

【知識・理解】

- ・日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係との比べ方を考察し、それを日常生活に生かすこと。

【思考力・判断力・表現力】

## 本時の目標

割引きの値段を求める場面で、割合に着目して解決の仕方を考え、数直線や図、式を用いて説明することができる。

## 本時の評価規準

割引きの値段を求める場面で、比較量、基準量に着目して解決の仕方を考え、数直線や図、式を用いて筋道を立てて説明することができる。(発言・ノート)【思】

## 本時における見方・考え方

「〇%引き」という言葉に着目し、数直線や図などを活用しながら比較量の求め方を考察する。

本時の板書



本時の授業風景



## 研究協議より(抜粋)

### 授業者より

本時では、〇%引きという言葉に着目させ、全員がしっかりと理解することを目標として授業を行った。グループ学習などを活用することで全員が理解して進めることができたが、その際に図を指し示しながら説明させると児童はより理解しやすかったのではないかと考える。また、自分の考えを友達と共有する際も同様に、図や数直線を指し示しながら説明させることに弱さが見られた。評価規準に「比較量、基準量に着目させる」とあるが、児童はグループ学習の際に「比べられる量、もとにする量」という言葉を使いながら説明できていなかったため、日頃から算数用語を使いながら説明させることをもっと意識して指導しなければならないと感じた。

### 参観者より

- 全員が基準量・比較量を理解しているかや、全員の理解度を確認しながら、授業を進めていた。
- 数直線を使って指しながら説明できていた。
- 課題を見て、ちがいや〇%引きとは何かをグループで確認させていた。
- 導入時の「見方・考え方」の図が30%引きを理解するのにいい手立てだった。
- 一部の児童の発表となっていたので、意図的氏名やグループの話し合いを取り入れるといい。
- 図と電子黒板が近くにあると、説明するときや既習をふりかえりたい時などに使いやすい。
- 「何%引き」「割り引く」など、言葉を統一するとわかりやすい。

### 上岡指導主事より【西部教育事務所】

- ・発問の意図がわかる発問だった。さらに発問を精選し、児童の発言がつながるようにするとい。
- ・「AとBのどちらが安い？」の予想で、友達との予想のずれが問いにつながるようにする。
- ・グループで30%引きの意味を考えさせていたところがよかった。
- ・一部の児童の発言だけで授業が進まないようにする。
- ・まとめの前に、解決できたポイントを児童にたずね、見方・考え方を確認するとよい。

### 授業者のリフレクションより

- ・導入部分において児童が思考する流れになっておらず、教師主導の流れになっていた。本時の問題と既習との違いを見出させて、児童が主体的に学習できるような授業展開にする必要がある。
- ・全体的に発問が多く、教師主導になっていたため、発問を精選していく必要がある。
- ・児童が数直線を書く際に、数の大きさを意識して書いていなかった。児童に量感を持たせ、再度書き方を指導していく。

### ☆5年生でこれから取り組んでいきたいこと

- \* 発問を精選し、児童主体で進んでいく授業に改善していく
- \* 図、数直線などを指し示しながら説明できるように指導する
- \* 教材研究する際に児童の思考の流れをより具体的に考え、児童の思考が途切れないようにする